

# 令和7年度 学校関係者評価

学校名	北海道苫小牧総合経済高等学校
-----	----------------

組織名	北海道苫小牧総合経済高等学校
評価者	
学校評議員 5名	

## 1 本年度の重点目標

楽しいと思える学校づくり～高校3年間でしか経験できない教育活動の充実～	
重点目標の適切さ	概ね適切であると回答している

## 2 自己評価結果

大項目	中項目	小項目	達成状況	取組の適切さ	改善の方策	自己評価の結果の内容の適切さ	取組の適切さ	今後の改善の方策の適切さ
教育課程・学習指導	教育課程等の状況	・習得した知識等はシラバスで示した目標に照らし十分であり、生徒の内発的動機付けに工夫を凝らした授業と学習評価への取組を行っている。(学校評価アンケートで肯定的な評価の割合が80%以上であった。)	A	A	・生徒が主体的に学ぶ姿勢を身につけ、他者と協同しながら学習の自己調整を図ることができる授業づくりを積極的に実施する。 ・学びの成果を校内で共有できる体制を構築するための校内研修の機会を積極的に設ける。	A	A	A
	各教科等の授業の状況	・各教科の指導内容・ねらいを明確化し、目標に応じた指導が行われた。(学校評価アンケートで肯定的な評価の割合が70%以上であった。)	B	B				
		・課題の設定、整理分析、まとめなどの学習活動を実践することができた。(学校評価アンケートで肯定的な評価の割合が70%以上であった。)	B	B				
評価者の意見等	・学校の特色を生かした学習活動が行われている。 ・引き続き、地域から求められる人材を育成するために、地域と連携した教育活動を推進していただきたい。							
生徒指導	生徒指導の状況	・未然防止、早期発見に向け、生徒情報の把握、提供、共有に取り組んだ。(学校評価アンケートで肯定的な評価の結果の割合が90%以上であった。) ・授業をはじめ、特別活動や部活動等とおして、積極的に生徒に声掛けに取り組んだ。(学校評価アンケートで肯定的な評価の割合が90%以上であった。)	A	A	・基本的生活習慣の確立と安全教育の充実を図るため、担任と分掌、委員会等の連携を密にし、組織的な生徒指導ができる体制を構築する。 ・保護者との信頼関係を基礎とし、関係機関との適切な連携を図ることにより、生徒が安心して学校生活を送れる環境とする。	A	B	B
	人格的発達のための指導の状況	・適切な目標設定のサポートや自己決定の機会の提供、結果に対する責任の取り方等について指導を行った。(学校評価アンケートで肯定的な評価の割合が70%以上であった。)	B	B				
評価者の意見等	・教職員と生徒の良好な関りが生徒の表情に表れており、卒業生が各地で活躍していることは教育活動の成果である。							
進路指導	就職・進学指導の状況	・生涯に渡って学ぶ意欲や働く意味について理解を深める教育活動の実践に取り組んだ。(学校評価アンケートで肯定的な評価の結果が70%であった。) ・授業や面談等を通して適性を見極め、多様な進路情報の提供とアドバイスを行った。(学校評価アンケートで肯定的な評価の結果が80%であった。)	A	A	・進路シラバスに基づき、進路指導部と学年との連携を密にし、3年間を見据えた系統立てたキャリア教育の推進を図る。 ・進路指導部、家庭や関係団体等との連携を深めながら組織的な進路指導の充実を図る。	B	A	B
	地域や企業等との連携の状況	・進路指導部、家庭や関係団体等との連携を深めながら組織的な進路指導を実現することができた。(学校評価アンケートで肯定的な評価の結果が40%以上であった。)	C	B				
評価者の意見等	・これまでの実践を生かすとともに、様々な視点からの活動の振り返りや検討が必要である。							

## その他

健康・安全指導	健康指導	・生命尊重や健康・安全に対する習慣と態度を高めさせる指導に取り組んだ。(学校評価アンケートで肯定的な評価の結果が90%以上であった。) ・講演、訓練、特別活動等を通して、意識を高める指導に取り組んだ。(学校評価アンケートで肯定的な評価の結果が80%であった。)	A	A	・心の相談委員会の充実 ・教育相談体制の確立を図る。 更なる生徒理解のため、日常的な相談体制の充実。	B	C	B
	心の病気への対応	・教育相談体制の充実を図りながら、健康意識を高めさせる指導に取り組んだ。(学校評価アンケートで肯定的な評価の結果が約70%であった。)	B	B				
評価者の意見等	・教職員の学校評価アンケートにおいて、「判断できない」という回答があることは、教育活動の共有が不十分だと考えられる。							
学校運営	信頼される学校づくり	・共通理解のもと、目標達成に向けた教育活動を実践した。(学校評価アンケートで肯定的な評価の結果が約80%以上であった。) ・学校ウェブや通信等を活用した情報発信及び外部機関との連携を実践した。(学校評価アンケートで肯定的な評価の結果が70%であった。) ・評価から授業や業務等の改善に取り組んだ。(学校評価アンケートで肯定的な評価の結果が90%以上であった。)	A	A	・生徒の学習内容や活動等の積極的な情報の発信の強化を図る。 ・各種規程等の積極的な見直しを推進する。	B	B	B
	組織運営	・課題解決に向け職員間での対話量を高めながら、他分掌等、学校運営に関わる業務内容を理解できている。(学校評価アンケートで肯定的な評価の結果が80%以上であった。)	A	A				
	教職員の資質向上	・服務規律、危機管理を意識し校務に当たった。(学校評価アンケートで肯定的な評価の結果が100%であった。) ・教職としての知識技能を求め、実践を積み重ねながら教育活動の充実を図った。(学校評価アンケートで肯定的な評価の結果が90%以上であった。)	A	A				
評価者の意見等	・これまでの実践を生かすとともに、様々な視点からの活動の振り返りや検討が必要である。 ・課題点については、改善につながる取り組みを模索し、実践と反省を繰り返しながら解決につなげていただきたい。							